

こどもと読む法話

安心して悩める場所

さんよう し こくきょうく きょうせん し にし ほり ひで ゆき
山陽四国教区 教泉寺 西堀 秀行

「みんな」の中を生きているわたし

わたしたちは「みんな」の中を生きています。学校のみんな、クラブや部活のみんな、塾のみんな。大人になると会社のみんな、地域のみんな、趣味のみんな。わたしたちは、必ずどこかの「みんな」の中でしか生きられないようになっていきます。みんなの中にとりあえず安心します。みんなの外で一人ぼっちで生きるのは心細くて仕方ありません。だから、みんなの中でのいようします。その「みんな」の中でのいる時にこんなことを言われたことはありませんか。

「あなたのせいでみんな困っているよ」
「みんなあなたのことをおかしいと言っているよ」

わたしはこういうことを言われたことがあります。すると、とても悲しい気持ちになったのを覚えていてます。本当に悲しくて、もう消えてしまいたいと思うほどでした。そしてみんなの中に入れなくなるかもしれない、とても恐くなりました。それから一生懸命考えて、みんなに「あなたのせいで困っている」と言われないように気をつけました。はじめはしんどかったけど、どうすればみんなに嫌われないか、だんだんわかるようになってきて、もう恐くなくなってきました。するとある時、わたし

はある人にこんな言葉を書いていました。「あなたのせいでみんな迷惑しているよ」。

お釈迦さまも「みんな」の中を生きていました。国の王子さまだったので、「王国のみんな」の中を生きていました。親鸞聖人も9歳で仏教の学校に入ったので、「仏教を学んでいるみんな」の中を生きていました。お釈迦さまも親鸞聖人も、そのみんなの中で悩みました。みんなの中にいないと不安で仕方がない。だけど、みんなの中に慣れると「みんな」と同じになって、みんなとちょっと違う誰かを「おかしい」と言ってとても悲しい気持ちにさせてしまいます。



一体どうしたらいいのか全然わからず、すごく悩んだのだと思います。なんと、お釈迦さまは自分の王国から出てしまうほど悩みました。親鸞聖人も、20年も通った仏教の学校をやめてしまうほど悩みました。

「人間の悩み」との出会い

少し話が変わります。わたしが小学生の時におじいちゃんが交通事故で亡くなりました。最初は「死ぬ」ということがよくわかってなかったわたしは、そのうちおじいちゃんは復活するだろうと思っていたました。でも、おじいちゃんは復活しませんでした。「死ぬ」ということは、もう会えないのだと知ったとき、いつか自分も死ぬ

だ、お父さんやお母さんいつか死んで会えなくなるんだと悲しくなって涙が止まらなくなった時がありました。

いつか必ず死ぬ、この人生の中で一体何をしたらいいのだろう。どうせ死んでしまうのに、なんのために生きているのだろう。どうやったら本当に安心できるのだろう。お釈迦さまの悩みは、出家をした時から「人間の悩み」になりました。親鸞聖人も仏教の学校をやめて、お釈迦さまと同じ「人間の悩み」に向き合いました。みんなの中で生きていた時は、その「人間の悩み」になかなか出会うことができません。みんなの中で嫌われないように、生きることと一生懸命だからです。そんなことに悩んでいることがバレたらまた、「みんなと違う」と仲間外れにされることが恐ろしいから、悩まないようにするのです。

「ありがとう」の慶讃

「みんなに嫌われたらどうしよう」という悩みは、つらくてしんどい悩みです。でも、わたしたちは、なんのために生まれてどう生きるのか、という「人間の悩み」は、実は誰もが求めている悩みです。本当に悩まないといけなものはこっちだったんだと、お釈迦さまや親鸞聖人が、「みんなの中」を抜けてまで悩み続けてくれたことによって、同じ思いを持っていたたくさんの人びとが、安心してその悩みに出会うことができるようになりました。お釈迦さまは2500年も前に、親鸞聖人は800年も前に、安心して「人間の悩み」を悩んでいける場所を、未来のわたしたちのために見つけてくれたのです。そのことがうれしくてたまらないから、「ありがとう」って言いたい! そのことを慶讃って言います。

子ども会情報誌「ひとりから」第33号より

生きていいのだという言葉が届いて

東北教区の子ども報恩講で、子どもたちと一緒に簡単な劇をしました。その劇では、ゆう君がおばあちゃんと一緒に荘厳の手伝いをしますが、高く積んだお華束を倒してしまいます。叱られると思いながら、小さな声で「ごめんなさい」と伝えました。ところが、おばあちゃんは怒らずに笑いながら言うのです。

「ゆう君が小さかった頃は泣き虫で、お母さんもあなたにつきっきりで準備どころではなかったのよ。そんなゆう君が、今お手伝いしてくれるのに、怒ることなんてある?」その言葉に、ゆう君は胸のドキドキがずっとほどけて、心がポカポカするのです。

この劇は、実際にあったお話がもとになっています。子どもの頃に学校で「人の役に立ちなさい」と教わり、家で「おばあちゃんは、人の役に立っているの?」と尋ねたそうです。すると、おばあちゃんは黙って仏間に連れて行き、こう語りました。

「阿弥陀さんはね、どんな人でも、そのまま生きていいのだと教えてくれているんだよ。先生の話だけじゃなく、阿弥陀さんの話も聞いてごらん」。

そのおばあちゃんのことを、大人になった今でも大切にしているといいます。

いまの社会には、誰かの役に立つことこそが生きる意味だと思って頑張る人がたくさんいます。でも、役に立てなくなったら、生きる意味までなくなってしまうのてしょうか。そこへ「そのままのあなたを見守る」阿弥陀さまのはたらきが届いてきます。それは、役に立とうとする気持ちよりも先に、私をまるごと受けとめてくださるまなざしです。

このはたらきに気づかせてくれるのは、そばで笑ってくれる誰かかもしれません。おばあちゃんの温かいまなざしを、わたしたちも受け取り、子や孫へと手渡していけたらと思います。そのまなざしに励まされながら、ともに歩んでいきたいですね。

青少幼年センター スタッフ 明本 弘治
(東北教区 圓覺寺)

青少幼年センターとは?

青少幼年センターは、青少幼年が抱える悩みや問題を受けとめ、仏さまの教えに基づいて青少幼年教化の支援を行っています。

詳しくはこちら



学校法人浄泉寺学園
洗心幼稚園
認定こども園
栃木県佐野市・東京教区



2月15日は、涅槃会であり、園の母体の浄泉寺が開創されたとされる大切な日です。この日には園児が本堂に集い、御本尊の前で子福餅をいただきます。いつから始まった風習かは定かではありませんが、小さなお餅を分け合うひと時に、子どもたちの成長と、お寺と歩んできたご縁への感謝を味わいます。

これからも大切に受け継いでいきたい小さなお寺の記念日です。静かですが心あたたまる、みんなで育てる年中行事になりました。



こどものひとこと

先生って、大きくなったら何になりたいの? 3歳 男の子



このページは真宗大谷派の青少幼年教化事業に関わる青少幼年センター、大谷保いくまようかい、しんしゅうおおたにほ かつこうれん育協会、真宗大谷派学校連合会がお届けします

こども画伯



題名：仏さま

今月の画伯

三浦 百彩さん
珉光幼稚園 (愛知県)

画伯のきもち

いつもおまいりしている仏さまの絵が描けてうれしいな

でんごんば

子ども会 & 教材紹介



ここから読めるよ!



あかほんくん

ほとけの子リーフレットNo.1 「聖徳太子」のご紹介

みんなは聖徳太子という方を知ってる? まだ習っていない人もいるかもしれない。一度、お寺の本堂に足を運んでみて! 聖徳太子のお姿が描かれたお軸がかけられているよ。どうしてかけられているんだろう? それは親鸞聖人が阿弥陀さまのところに会おうのに、とてもとても大切な方だったからなんだ。もっと知りたい人は、ぜひリーフレットを読んでね!



無償 ※ご希望の方は青少幼年センター (TEL:075-354-3440) までご連絡ください。